

偏愛対談“万博愛”-つづき-

岸本:もし自分が万博のプロデューサーだったら、どんな万博にしよう?と
か考えませんでした?

新津:急に大きなテーマがきた!

岸本:今はネットで何でも情報を得られる社会じゃないですか。その中で今成熟した日本で出来ることを考えた時、思い切ってプロデューサーを全員20代にするとか、国際舞台で輝く経験を積むものとしたら、面白いものが出来るんじゃないかと思って。それから、どうしても今回は「いのち」「未来社会」というテーマもあって、科学技術的なテーマが先行したと思うので、もっと根源的な哲学やアートなどのテーマがあってもよかったのではと思いますね。

山田:シグニチャーパビリオンがその役割を担っていたけど、確かに、万博で色々な先端技術を見て、宇宙技術もIPS細胞の心臓も空飛ぶ車もすごいんだけど、技術についての想像力みたいなものは手塚治虫の漫画以上に進んでないやな、という印象も受けました。

新津:まだ、それらの技術が身近に感じられていないという側面もあるかもしれない。なんとなくAIも自動運転も知っているけど、実社会に実装されるまで時間がかかるし実感にまでは至らない。その中で見たこと、聞いたこと、体験したことなどの、“五感”に残ることが印象として残るんじゃないかな。

岸本:そうですね、沢山パビリオンを体験していると余計にそう思います。あと、万博の成功を何に置くににもよりますが、多くの国が威信をかけて準備している万博という場で、失敗ってないんじゃないかとも思って。沢山楽しんだ結果、これ

を失敗と呼ぶなんて失礼でしょと思いました(笑)

山田:取り合えず黒字になって良かったという話はあるけれど、そういう尺度でしか計れないのももったいないよね。

新津:藤本社介さんが、大屋根リングの中から見上げる空を世界中の人が体験する、それに価値があるということ言われていた。でもその価値って数値だとかで測りようがない。だから事前にいろんな批判があったけど、実際に体験する人が増えるにつれて、その価値が伝わり、評価が変わっていったよね。

山田:SNSの影響もあって、やっぱり自分たちで参加して作るというか、これだけの規模で消費だけじゃない場があったというのは大きかったと思う。

新津:「記憶に残る」みたいなこと、それによって直接的に儲かるかは分からないけれど、日本にとっての未来への福祉というか投資としての機能は大きいよね。体験した人は万博のことを、自信をもって語れると思うし。

山田:確かに1970年の万博も、いい面も悪い面もあったはず。でも体験した人の熱を持った語り口が、万博を良い記憶として受け継いできたんだと思う。今回の万博もその記憶が加速させた部分がありますよね。

岸本:80歳になった時に、大阪に万博をもう一度!て言い始めたらどうしよう(笑)

山田:推進するかは別にして、そう主張する気持ちは分かるようになってしまった(笑)子どもたちは大人になったら万博をどう語るんやろかね。

岸本:万博が残したものが何だったのか、また10年後、20年後に話ができたら面白いですね。



Projects 2025

2025年度も各地でプロジェクトに取り組むことが出来ました。
皆さん、ありがとうございました!

Ongoing Projects

プロジェクトの
詳細はコチラ>



なんば駅周辺
まちづくりプロジェクト



「久御山まちのにわ構想」
プロジェクト



西梅田地区における
エリアマネジメント



山口駅通りまちなかウォークブル
推進プロジェクト



松本城三の丸エリア
プレイスメイキングプロジェクト



下関カイキョー
リノベーションプロジェクト



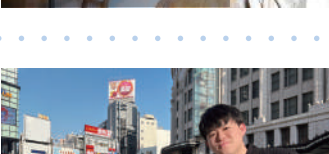
大津港周辺
賑わい創出プロジェクト



人吉復興
まちづくりプロジェクト



シェアハウス・みかん荘



New Projects



岐阜市柳ヶ瀬エリア
都市再生プロジェクト

New Projects



三宮センター街周辺ビジョン作成

News | 2025 |



新卒新入社員の
福井勇仁が入社!



海外研修旅行で
台湾へ!



Heart Beat Letter

Have a great new year! No.5

#2025.12



ハートビートプラン“偏愛”万博

Heart Beat Letter No.5

ハートビートプラン 偏愛万博

#2025.12

誰がなんと言おうとこれが好き！そんな“偏愛”は世界を動かす！
今年、55年ぶりに開催された大阪・関西万博。賛否はありつつも大盛況のうちに幕を閉じた万博にちなんで、ハートビートプランメンバーの偏愛を詰め込んだ“偏愛”万博を開催します。

神南愛

田中 颯太

「渋谷区神南」は、私の偏愛の地です。学生時代から数百回と通い詰めています。お洒落なカフェやアパレルが並ぶこのまちには、渋谷とは思えないゆったりとした時間が流れています。神南のBEAMSは多店舗に比べてもセレクトセンスが抜群、Kenyanのアイミティー（アイスマルクティー）の美味しさは格別です。SLOTHというコワーキングスペースには、学生時代ずっと入り浸って作業していました。



北谷公園は高低差を活かした劇場型の空間構成により「見る、見られる関係」が生まれていて妙に落ち着く…。しかし、JINNAN HOUSEという飲食店の移転は痛恨の極み。あのコロッとした唐揚げをもう一度食べたい…。

経年変化愛

福井 勇仁

物が手の中で少しずつ艶を増し、色を深め、やがて傷ついていく——その変化に、僕は心を掴まれます。たとえば革製品。最初は硬く、控えめだった色合いが、日々の手入れの頻度や、選ぶクリームの色や油分によって、艶や手触りを少しずつ変えていく。同じ革であっても、時を重ねるうちに、数年後にはまったく異なる、唯一無二の“味わい”を帯びていく。その過程が、たまらなく愛おしい。直射日光に



当ててしまったり、手入れを怠って色がかすれることもあるけれど、それもまた、その時々の方が映し出されているようで、案外悪くない。僕自身も、選択や出会い、環境の移ろいを味わいながら、歳月とともに良い“味わい”をまもっていきたいです。

手書き愛

山田 友梨

パソコンにスマホに音声入力。便利なツールはいくらでもあるのに、いまだに手書きがやめられない。万年筆を集め始めてから、手書き愛は更に加速した。日記や書類、ちょっとしたメモ。手書きの機会は少なくなったのに、よし書くぞ、と万年筆を取り出すと頭がクリアになる気がする。一番好きなのはノートを見開きで開いて、左上から思いつくままに文章で埋めていく瞬間だ。思考のスピードに手書きのスピードは追いつかないの



だが、そのズレの中にリズムが生まれる気がして、心地よい。万年筆のペン先からスルスルと文字が流れ出てくるのが、音楽を奏でているみたいだなと思う。手が動く限りは、ずっと手書きし続けるのでしょう、たぶん。

にんにく愛

新津 瞬

オリーブオイルでじっくりにんにくを加熱するときあの香り…それだけで幸せ。そう、僕はにんにく大好き。じっくり焼いたホクホク感もよし、料理をパワーアップさせる下味としてもよし、鰹のタタキの薬味としてピリッと食べるのもよし。東京で飲んだ“にんにくスパークリング”もおいしかった。まさに最強食材！にんにくが入っている料理をお店で見つけるとだいたい頼んでしまいます。家にも生にんにく（青森県産福地ホホワイト六片種）、チュー



ーブにんにく、ガーリックソルト等を常備。つつい料理に足してしまいがち。やっぱり青森にんにくがおいしい。たまに見つけたらイタリア産も。皆さん、ぜひ一緒ににんにくの香りと味にまみれましょう。

歌舞伎町愛

園田 聡

新宿・歌舞伎町。生きるのに大切な「ヒリヒリ感」を思い出させてくれる場所。若かりし頃に、深夜の路上で仲良くなったブラジル人に連れられて入ったパブで典型的な形でぼたくられた思い出の場所でもある。人生で初めて人にお金を借りることになり、自分の平和ボケの感覚を強く悔いたことを覚えて



ている。今でも仲間と飲み明かし、明け方の街を歩いていると、生死が分からないような状態で路上で寝ている人がそこここにいるが、街ゆく人は誰も気に留めない。気持ちいいくらいの他人に対する無関心は、この街でしか生きていけない人たちにとってある意味の寛容力になっているとも感じ、訪れる度に「都市とは何か」という問いを投げかけてくれる。

BUELL愛

泉 英明

私はバイクが大好きで、ツーリングで国内を旅して、ときには通学通勤に使い、大学1年から現在まで10台位のバイクを乗り継いでいるが、その中でも今のBUELLが1番のお気に入り。20年以上前にこのバイクに行き着いたが、ジャジャウマ過ぎて子どもを乗せられないため一度手放し、その後また生産中止となった同じ車種の中古車をゲットして今に至る。

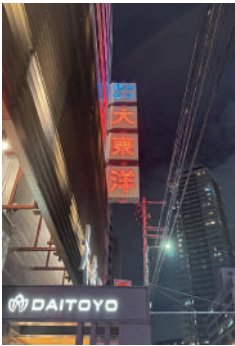


スポーツスターのエンジンを積み、スポーツ仕様にチューナップしたバイクで、見た目もイケてるが、3000回転を超える位から振動がなくなり研ぎ澄まされていく感覚が何物にも代え難い。よく故障するのが難点だけど、長くお付き合いしたい相棒である。

大東洋愛

有賀 敬直

月に何度もお世話になっている大東洋。サウナはもちろん、ご飯も食べられて、マッサージも受けられて、この値段！出張の強い味方大東洋！そんな私にとっての偏愛大東洋 TOP 5！



- 1位 宿泊階とロッカー階が同じ！スムーズな着替えと宿泊！（意外とない）
- 2位 エアウィーブで意外と快眠カプセルベッド！（本当によく寝られる）
- 3位 朝ごはん！焼き鮭！生卵！納豆！の完璧朝ごはん！（健康第一）
- 4位 静かで落ち着くカプセルエリアのワークスペース！（ホテルの個室よりも何故かはかどる）
- 5位 いつでも飲み放題、宿泊フロアのココア！（地味に落ち着く）

少年野球愛

木村 隼斗

子どもがやりたいなら見守ればいいか、くらいの気持ちで始まった少年野球との関わり。気づけば8年になりました。

自分は野球経験ゼロで、兄が入っていた少年野球にも頑なに入らなかったくせに、2025 年に至っては長男も次男も最終学年で、2チームを追いかける日々。体育会系の暑苦しさとは距離を取って生きているのに、絶対ムリと思っていた「お父さん審判」も、細かいルールは曖昧なまま、なぜか妙に堂々



とこなし、気づけばスコアブックまでつけるように。そして最近では、試合を見ても子どもじゃなくて審判の位置取りばかり目で追っている……。少年野球偏愛が、審判偏愛に行き着かないことを願ってやみません。

偏愛対談“万博愛”

山田 岸本 新津

紙面ではHBP偏愛万博開催中！一方こちらではハートビートプランメンバーの中でも大阪・関西万博に何度も足を運んだ3人で集まって「万博愛」を語りたいと思います。

山田:「万博愛」ということで、大阪・関西万博全般を通して、印象深かった出来事や、感じたことを思う存分語りましょう！

岸本:私は14回くらい通いました！私の中で万博が一番盛り上がったのはロゴが決まった瞬間。ミャクミャクのデザインは誰もが偏愛するポイントだったんじゃないでしょうか。それから、万博はお祭りではあったんですけど、生きている中でここまで共通認識のお祭りみたいなのってなかったですね。関西だけかもしれませんが(笑)会うたびに天気の話するみたいに万博行った？って。今を生きる人達の共通体験として大きかったと思います。

新津:僕は家族で3回行ってるんだけど、息子が今4歳なので、ちょうどこの時期に色んな国のことや、あの空間や建築を直に体験できるという機会は貴重だったんじゃないかと思う。息子はいまだにセルビア料理が美味しかったってずっと言ってるし(笑)

あとは大屋根リングかな。想像の3倍くらいでかくて、あれは体験しないと分からない素晴らしいと思う。リングによってバラバラなものがギュッと包括されていて一体感が生まれている。またその真ん中に緩衝帯のように森があるのも良かったです。文明に囲まれた中心に森があって、植物が成長して虫の音がするとか。

山田:私が最初に行ったのは4月末だったけど、会場にいる時の感覚としてすごく「許されている」と感じたんよね。スタッフの人も建築やパビリオンも、みんな良いと思うことをそれぞれにやっている。だから自分も自分のやり方で楽しんだり過ごしたりしていい、そういうおらかな双方向性がとても心地良くて。それから、今って子供たちに「建前」を教えるのが結構難しいなと感じるんで

料理道具愛

岸本 しおり

料理を生み出す道具（調理器具・家電）が好きで、家にあるお気に入りには、ホットクック（自動調理鍋）、ヘルシオ（ウォーターオーブン）、BRAUNのブレンダー、VERMICULAR（鋳物のホーロー鍋）、Turk（ドイツ産の鉄フライパン）、大矢製作所のおろし金（純銅性のおろし金）、柳宗理のステンレスボウル、IWAKIのガラスタッパー。最近は、寒くなってきたので、スूपメーカー（狙っているのはrecolte）欲が再燃中。美味しいレストランで色々食べた結果、素人



が頑張るより、機械につくってもらった方が美味しくできるのでは？（火加減大事!）という結論に至り、最近では、調理家電に熱が傾むいている。ヘルシオは、じゃかいもとにんじんを切つて、ボタンを押すだけでびっくりするほど美味しくなり、ほんとに幸せ。

朝ごはん愛

田中 咲

実家時代から朝ごはんのマスターは納豆ご飯に焼き海苔、緑茶。家を出て以降、朝を疎かにした時期もありましたが、やはり和食、しっかり食べねば動けない!と思い直している近頃です。

譲れないのは、納豆にはキムチかぬか漬けを合わせ、海苔はできるだけ分厚くてパリッとしたものを選び、緑茶はお茶屋さんで買った茶葉で急須で入れる。あとは余裕に応じて味噌汁をつけ（昨晚の残り）、欲を言えば魚に卵、果物も



食べたい、いつか土鍋でご飯を炊きたい、そして心ゆくまでおかわりしたい…。なんて頭で理想の朝ごはんを描きながら、今は目の前の納豆ご飯に集中集中。「朝茶はその日の難逃れ!」とぐびっとお茶で締めくくり、慌しい朝を始める毎日です。

すよね。様々な国が共存できる、肌の色が違っても分かり合えるとか、大切だけど現実とはそうならない状況も多い。でも万博にいくと、説明よりも先にその光景が目に入って来るわけで、そのインパクトは大きかったですね。

新津:2人はあえて挙げるとしたら一番良かったパビリオンってありますか？

岸本:王道でいくと「いのちの未来」ですね。100年後の未来じゃなくて、結構近い未来の姿にリアリティがあった。あと印象に残っているのは「アンゴラ」パビリオン。他の国のパビリオンは、最先端技術を持ってきました!という内容が多いけど、アンゴラは魔術で病気を治療していたところに現代医療が入って来て、その両立を目指している、という内容で、私たちが普通に享受出来ているものが当たり前でない国がある、それをあえて万博の中で展示しているのが印象的でした。

山田:私は最初に入ったのがハンガリーパビリオンだったので、その印象が強いか。暗闇の中で民族衣装の女性がハンガリー民謡を歌うという、展示や映像などの説明を潔くなくして、体験に振り切ったパビリオンで印象に残っていますね。あとは吉本の舞台のカラオケ大会。これだけ作り込まれたパビリオンや壮大なテーマの横で、普通の5歳の女の子が一生懸命「勇気100%」を歌ってたり、お兄さんがB'zを熱唱してたりする。その生活感というか生々しさに、いい意味でクラクラしたなあ。

新津:僕は建築で言えばやはり落合陽一さんのnull?の建物が生きているようで、場と空間の体験として魅力的でした。あとは大学同期の建築家が設計したトイレがあったんですが、あのように入手のチャンネルの場があったことは素直に嬉しいです。



裏面に つづく